
黒き指揮官様

冬城 一夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒き指揮官様

【Nコード】

N2431BA

【作者名】

冬城 一夜

【あらすじ】

友人が異世界トリップして行方不明。そんな事とはしらず、行方不明になる直前の友人から送られた新作ネットゲームの登録サイトに登録しにいつてみる。どうせこのゲームに夢中なんだろう?と思いながら。

そして案の定ゲームの登録が完了すると異世界に飛ばされてしまう。いつもどおり女の子キャラを作ったから、女として……。

R・18で投稿している「銀の戦乙女」の隣国である帝国を舞台にしたお話です。

女の子として異世界に飛ばれた主人公（中身男）のお話です。やっぱり題名どおりの2つ名がつくかは未定です（笑

小説初心者です。読みにくかったり、誤字脱字も気をつけていますが、多いかもしれません。ご指摘などツッコミあればいれたい。

生暖かい目で見ただけならば幸いです

1話 プロローグーまさかの巻き添え?ー(前書き)

銀の戦乙女にえっちなシーンを入れるのが大変なので

冒険シーンだけ書きたいだけかけるはず!と軽いノリで書き始めました。

がんばりますので、生暖かい目で見守っていただけると嬉しいです。

1話 プロローグーまさかの巻き添え?ー

まずは、自己紹介をしようともう。僕の名前は、ティーティアもちろんネットゲームでのハンドル。

親しい連中からはティアと呼ばれている。中身は三十路に足をツッコミかけている、しがないサラリーマン、もちろん男。

MMOが大好きで、対人戦闘が好きだ。なので今日もゲーム内で戦争に参加し前線で指揮をとっていた。

これでも、そこそこゲーム内では有名で親友のイリーナ（中身は男だ）と並んでギルドの双壁として有名だった。

仕事が忙しくなったイリーナの代わりに戦争に参加していたのだが、戦争中に新作MMOのテストに当選したんだとURLをおくってこられた。

もちろん忙しかったので、あとでみるよとスルーした。

その日から、イリーナがネットに来ない。何かあったのか?と思う。

ちなみにソイツの中身は斉藤 啓一。付き合いも長い親友、悪友ともいえる。

毎日ネットにだけはきて挨拶はしていくアイツがこないとなるとさすがに、気になる。そういえば テストがとかいっていたな。

アイツはいつもイリーナで登録するから、そのゲームに夢中ならす

ぐにわかるだろう。

チャットログを見つけて、URLを開く、砂嵐？いやいや、Not Foundならともかく砂嵐って？

突然画面に現れる。転生者はただ1人。されど唯一無二の例外を認める！と言葉が表示される。

意味がわからないが、演出なのだろうか？無駄に凝っているなどおもしろい、表示されるままに心理テストのようなアンケートに答えていく。

適度にごまかしながら回答し、ようやくキャラクター設定画面にたどり着く。

キャラクター名はいつもどおりに
ティータ・シュテルンでいいかな。

ー種族を選んでください。

うーん、幼女をつくりたいけど、人間幼女だとキャツキャウフフで
きないし（いやゲームじゃしないけどさ？

ハーフエルフあたりにおくかな？

ー性別

かわいいシヨタっ子というのもいいけど、幼女だよね。かわいいは
正義です。

黒髪のアストレート、背中にちょっと届くぐらい？

体つきはちつぱいは正義ですと・・・、ハーフエルフだから口
リババアになるのかな。

瞳の色か、金色と赤？うーん、合わない。金色と碧眼にするかな？

――特化魔法選択

得意属性を選ぶのかな？定番物の属性から時空、死霊・・・創造魔法？うーん、アイツが好きそうだなあ。

お？渋いのがあるな、

加工魔法

物質を加工し、武器や防具など多彩な物を生産する事が可能な魔法。魔法に熟練することにより生産品の出来なども変わる。

生産職バンザイ！

――種族スキルを選択

輝く命の奇跡 スタミナ消費を抑えることができる オッドアイ
ハーフ故に左右の目の色が違う 魔力＋1 魔術才能 体内の血
のせいかな、効率よく魔力行使が可能

特性ーキャラクター作成後自動選択されます

さっきのアンケートで決まるっばいかな？

――異世界に旅立つにあたり、この世界へはもどることができません。それでも貴方は行きますか？

凝ってるなあ・・・もちろんはい

――本当にかまいませんか？

なんだろう、一抹の不安を覚えるんだけど・・・。はい

ーそれでは、貴方の新しき人生に幸おおからんことを

くらつとする、立ちくらみを起こしたような・・・そして瞬間的に悟る、これ。ヤバイ・・・たぶんこれでイリーナ来なくなつた？ああ、夢だといいな・・・

1話 プロローグーまさかの巻き添え?ー(後書き)

設定などは次の話で必要であろう根幹部分だけいれます。
必要になった設定などは都度いれようとおもいます。

2話 幸運の効果？

賑やかな街を空の上から見下ろしている。古代ローマ風の街並み、街を城壁がぐるっと囲んでいる、外敵がいるのだろうか？

意識ははっきりとしていて、なんとなくイリーナがよくネット小説で読んでいた異世界転生なのだろうと理解してしまっていた。

めんどろな事になったなあとあまり深くは考えないようにする、心が壊れてしまいそうだから。

これ、知識もなく異世界に放り出されたら野垂れ死にするよね？とか思っていると知識がどこから流れこんでくる。

銅貨10枚で銀貨1枚 銀貨20枚で金貨1枚 金貨20枚で白金貨1枚。頭の中で銅貨一枚で100円と思う自分がいる。

そしてこの世界には遺跡と迷宮が存在すること。遺跡はそのまま古代の遺跡、よくあるRPGなどのダンジョンと一緒にだ

迷宮というのは魔界から伸びる侵略経路のことで、地下から木の根を逆さまにしたようなモノが地上に伸びていると想像するとわかりやすいかもしれない。

世界に大小ふくめて迷宮の先端が地上に届いて穴があいており、そこから魔族やモンスターがでてくるようだ。

この魔族というのと別に悪魔族というのがあって、インキュバスやサキュバス、ヴァンパイアなんかのどう考えても一般的にいう魔族

なのだが

魔族の中で友好的な戦争の際に人間側についたので別の名義で呼ばれている。

地上に空いた迷宮の穴は大穴6つあり、過去の戦争や神々の力において封印され、現在大穴は隣国の街の近くにある物1つだけが通行できるようになっている

地上での大きな戦争は200年ほどに行われたのが最後である。

うーん、技術が追いついているなら、完全体感型のVRMMOと言われても納得してしまいそうだった。

しかし、親切なのか残酷なのか微妙な知識だけ教えてくれた……どうしろっていうんだ！

うん？急に身体が引つ張られるように都市近くへと降りていく。

どうやらここがスタート地点、これから僕の物語の始まりになるようだ……いやいやいや、常識もなにも理解していないの？

ふわりつと城壁の外の地面の上に降り立つ。ぺたぺたと身体を触ってみるとキャラメイクした通りの身体であるらしい。

鏡でもあるといいんだけど。

持ち物は……ボロボロのロープ、ボロボロのスボン、ボロボロのシャツ……銀貨3枚……。

どうしろというんだろうか？なんだこのマゾゲーは！と悪態をついて運営に文句が言いたい、ゲームなら。

イリーナどこに居るんだろう？逢えたらお金とか援助してくれないかな？

死んでもかも生きてるかもわからないし、とりあえずは街へ入って安全の確保とお金稼ぎかな？

加工魔術を選んだから手頃な素材か何かを加工して売ればよいかな？

とりあえず、持ち物は確認した・・・ステータスとかは見えないかな？と思ったら視界の隅？とは違う、意識の隅？ここに

よくあるRPGのステータスメニューがみてとれる、ああ・・・なんか、夢であってほしいと思いつながら

冷静に事実を確認し、把握していく。ステータスや魔法などは設定した通りで間違っていない。

途中で頬も抓ってみただけど痛かった、死んだら終わり・・・だよな？頑張つて生きよう。

そういえばキャラ作成のあとに割り振られるっていう特性は

特性：傾国の美女 魅力+3 国を傾かせるほどの美貌を持つものに与えられる。その魅力は同性、異性を問わない

特性：指導者の極意 カリスマ+4 他の者を圧倒的に惹きつける、魅力とはまた似て非なるモノ

特性：天使の声 カリスマ+1 透き通るような美しい声は聞く者

を魅了する。

特性：妖精の指先 器用 + 4 細かな作業などをまるで妖精が踊ることくこなす指先。器用な指先の上級特性

特性：祝福 幸運 + 3 如何なる因果か、貴方には幸運が訪れることがある

うーん、カリスマと美貌？女帝にでも慣れというのだろうか？

ボロボロの身なりのまま、都市の城門へと歩いて行く。

関所のような物があって、鎧をきた兵士がいるのを想像していたのだが、ちがった。元の世界の軍服にしか見えない。

深緑の軍服を着た兵士が関所で荷物のチェックと身分のチェックをしているようだ。

思わず列に並んでしまったけれど、ハーフエルフって大抵は迫害対象であったりするし、そもそもこの身なりで都市にいれてもらえるのだろうか？

しかも、結構コワモテの兵士さんだ。

「次！！」

言われてびくつと肩がすくんでしまっ、ちょこちょこ歩いて兵士の前へいくと、名前を聞かれる。

「あ、ティーティア・・・です、ティアって言われています」

怯えたような表情を浮かべて見上げる、設定した通りの外見ならい

ケル！と打算的な事を考えている。

「怯えさせたようだな、すまない。街へはいるには銀貨2枚の税を納めるか、通行理由が証明できる身分証になるカードを提示する必要がある」

目が合うと、兵士の表情に一瞬哀れみのような感情がみえる、身なりからしても仕方がないことだしね。

よくあるギルドカードとか、そういった類だろう、もってるわけではない、この衣装と銀貨3枚以外なにもないのだ。

「あり……ません……、お金でいいですか？」

そういつてぼろぼろの布袋をひっくり返して銀貨3枚を取り出して、2枚渡そうとする。

「確かに受け取った。必要であるなら中央広場に帝国の役所がある。住民登録や冒険者ギルドへの所属手続きなどもできる。行ってみるといい」

顔とは違い、優しい人のようだ。受け取った振りをして銀貨をもっている手を握り直させてくれた。

なんだろう、他愛もない事のはずなのに、目尻に涙が浮かんだ。

「ありがとうございます」

ちょこんとお辞儀をして、街へと入っていく。すごい人だ、うーん、視線が低いせいで全然場所がわからない。

中央広場といつていたから、真つすぐ行けばいいかな？

キヨロキヨロと辺りをみまわし、道の端へでたりして場所を確認しながら歩いて行く。

時折軍服をきた兵士が2人1組で巡回して回っているためか、治安は良いようだ。裏通りなど変なところへいかなければ大丈夫かな？

よく整備された道路を歩いて行くと、広い噴水広場に馬車や行商人が行き交っている。役所・・・あれかな？

石造りの立派な建物、城門にあつた紋章と同じ三日月と獅子紋章が描かれた真紅の旗が立てられている。

恐る恐るといった感じでドアを開ける、受付らしき窓口までいくと事務服を来た女性に声をかけられる

「なにかごようでしょうか？」

「あ、えっと、街を入るときにここにくれば、色々登録をしてもらえらつて聞いてきました・・・」

「わかりました、都市の住民登録、冒険者ギルドの登録、孤児院への受け入れ登録などもできますが」

この格好だ、孤児院へはいるのかと思われたのだろう・・・さすがにそれはちよつといやだ。

「街で商売、露店などをしたいんですけど・・・」

「え……？そう……ですか？？ちょっとお待ちください」

どうしようか？と思案しているようである、身なりもぼろぼろな子供が商売がしたいというのだ、悩むだろうなあ。

「そつだ、ちょっとリュシカ！リュカ！またさぼってるんでしょ？！」

何かを思いついたのか受付の人が名前を呼ぶと、さらっとした長い金髪を後ろで束ねた白い軍服を着込んだキリっとした印象の美女がこちらへむかってくる

「なによお、人聞き悪いわね。書類仕事を終えてお昼を一緒にたべようと思ってきただけじゃない」

「貴方見合いの話がうつとしいとかいつてたわよね？！この子の後見人するのはどう？遠縁だとかなんとかで、それならもつともらしく断れるでしょ」

「ええ？ちよつと、いくらなんでも……いえ、けど……それも」

「それにこの子、かわいいわよ？孤児院で楽するんじゃないで露店でもいいから商売したいなんていうのよ？助けてあげたいじゃない」

「え……いえ、けどさすがに、私が面倒をみるなんて！」

なんだろう、僕を放置して僕の処遇がすごい勢いで決定されていつてるような気がする、書類書いちゃうからとか、戸籍作成とか物騒な単語も聞こえてくる

「あ、あの！すいません、これでもハーフエルフなので27なので
す」

思わずむごこの世界での年齢を答えてしまう。2人の視線がこちら
へ釘付けになって、まじまじとみつめられる。というか顔ちかい、
近いですよっっ！！

頬を染めて視線を逸らすと顔をリュカさんに掴まれる。

「あ、ほんとだ。エルフ耳……………」

「え？けどもうティーティア13歳って登録しちゃったわよ？しか
もリュカの遠縁の親戚、両親は事故により死亡って」

おおおおい、何をしてるんですか、僕なにも同意すらしてないです
よ??!

「そっか、じゃあいいわ。この子は私が面倒みるってことで！」

ええええ?!ノリ軽いですよ?!ねえ?見知らぬ男、いえ外見女で
すけど、引き取るとかいいんですか?

「いいわよね?」

ずいっと顔を寄せられる、石鹸のような匂いがしてドキドキする・
・うなづくしかなかった。

幸運の効果なんだろうか?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2431ba/>

黒き指揮官様

2012年1月6日03時50分発行